

遊び場で・・・お出かけ先で・・・  
こんな時、どうしたらいい？



## ママのお悩み相談室



1歳後半から3歳ぐらいまでの困ったチャン。遊び場でのトラブルも多いですね。どうやってつきあえばいいのかしら？相手に悪い、申し訳ないと思うし、きちんとしつけていない、しからない親と周りに思われたくないから、ついついわが子をしかってしまうことはありませんか？ここではよくある遊び場でのトラブルについて大人はどう対処すべきか、武蔵野大学児童教育学科 義永 睦子（臨床心理士）先生に聞いてみました。

Q

**人の物を欲しがる、順番が守れない。どうしたらいい？**

A

2～3歳の子は、他の子の物は素敵に見える。同じものを持っていて嬉しい。そんな気持ちから相手の物が欲しくなるのです。「交代、順番、共有する」ができるようになるのは4歳ぐらい。今は「貸して」「入れて」を学ぶプロセスにいますので、子どもを叱る、子どもに言わせるのではなく、まずは大人が言ってみる、やってみせるといいですよ。0～1歳は、触るだけで満足するところがあるので、危険なものでなければ、親が「ちょっと触らせてね」と、お願いし、気持ちを満足させてあげましょう。

Q

**お友達に「やだ」「だめ」「やめて」と言う。これってそのままでもいいの？**

A

気持ちを言葉に出せるようになったのは、とても良いこと。成長している証です。すぐ叱らずに「こうしたかったのかな？」「あぁしたかったのかな？」と、いくつか言いながら、子どもの思いを聞きだしてあげましょう。大人が子どもの思いをつなげて橋渡ししてあげるといいですよ。もし、子ども自身、いっぱいいっぱい分らないようだったら、理由を聞くよりも、落ち着けること、子どもの目に入る景色を変えたりして気分転換させることを優先させてみましょう。

Q

**お友達ともめたり、言うことを聞かない時、つい「もう帰るよ」「もう来ないよ」と、大きな声で叱ってしまう。これっていいのかな？**

A

「もう来ないよ！」と、叱りながらも、またその場に来る。繰り返しているうちに、「ママはこう言っているけど、どうせ違うだろう・・・」とタカをくくり、本当に聞いてほしい時に聞かなくなります。違う伝え方ができるといいですね。

大きな声で叱ると、何で叱られているかよりも「ママが怒っている」としか思いません。子どもに分かってもらうためにも、大きな声ではない伝え方を工夫してみましょう。例えば、◎危険なことは「こうだから危ない」としっかり伝える ◎先の見通しが持てるように楽しみを伝えて気持ちを切り替える ◎「ママはこうしてほしい」とママの思いを伝える ◎もめごとの時はお互いの思いを聞いてあげる、などです。

その子の年齢、理解の仕方によって伝え方にも工夫ができます。目安となるのが、「おやつだよ」の言葉かけ。「おやつ」の言葉より目の前のおもちゃにひかれる時期は、理屈を長く言うより、実際に実物を見せたり景色を変えたりしながら、伝えてみましょう。おやつと聞いて「手洗いして座ろう！」と自分から動き出すようなら、先の見通しが持てているということなので、次はダメな理由を伝えながら話していくといいですよ。いろいろ試してみてくださいね。



Q

**お友達に手が出てしまう（叩く、噛む）。どうしよう？**

A

わが子が手を出してしまうのを見るのは辛いですね。相手にも申し訳ないし……。自分の気持ちを言葉で伝えるのが難しいから、先に手が出てしまう時期。子どもは理由なく叩いたり、噛むことはしないもの。子どもには子どもなりの「つもり」があるし、伝えたいことがあるのです。そこを理解した上で、すぐに叱らずに「こうしたかったのかな？」と、一度気持ちを聞き出してあげましょう。子どもに謝らせるよりも、まずは大人が気持ちを代弁して謝りましょうね。謝らせるしつけをあえてしなくても、親の態度を見てちゃんと謝れる子に育ちますよ。



Q

**おもちゃを貸せない。どうしよう？**

A

1歳後半～3歳前は、「抱え込み」の時期。おもちゃを自分で抱え込んで独占したい。「これはぼくの！わたしの！」と自分の主張をしながら、自己意識(自分と相手がいる)が確立されていくプロセス。自分、相手(友達)、自分の物、相手(友達)の物と、区別できるようになると、その先で、お互いを尊重できるようになる。この先、人と関わる上で大切なことを学んでいるのです。だから、抱え込みを満足いくまでやらせてあげたほうが後々スムーズに貸せるようになります。公共のおもちゃは、みんなの物だけれど、その時使っている子の物と見なしていいのです。ただ、ずっと独占できるわけではないので「今は貸せなくてごめんね。もう少し使ったら貸せるから待っていてね」など、相手に話してあげましょう。その時、手本として、大人が別のおもちゃを貸してあげると、それを見て案外貸せるようになるかもしれませんね。

Q

**赤ちゃん（年下の子）が遊びを邪魔しにくる。「小さい子にやさしく」というルールを守ってほしいから、ついガマンさせてしまう。これっていいのかな？**

A

一生懸命遊んでいるものを壊されるのはとても悔しいこと。その時は一緒に悔しがってあげましょう。相手(年下の子)に敵対心を持たないように、「残念！」「でも、かっこいいから触りたかったんだよね」と伝えましょう。悔しい気持ちから立ち直るプロセスは、心を強くする上でとても大事です。子ども同士お互い気分よく遊べるように、赤ちゃんにもひとこと声をかけましょう。「赤ちゃんだから」と特別扱いせず、「お兄ちゃんの大事なものだよ」など、大きい子の気持ちも赤ちゃんにちゃんと伝えてあげましょうね。大きい子にも小さい子にもきちんと話すと、どちらも「自分のことを大切にしてくれている」と思えますよ。

お友達とのトラブルは、子どもにとって社会性を学ぶ大切な経験でありとても良い勉強です。親は、お互いがその年齢なので、「お互い様だよ。だから大丈夫」と言い合えるといいですね。

叱るのではなく、子どもの気持ちを代弁しながら、子どもにお手本を示してあげましょう。それは子どもの成長を助ける作業であり、甘やかしているのではありませんよ。子どもに「貸して」「順番」「仲良く」が、すぐにできるようになることを求めず、少しずつ、もう少し先にできればいいな…と、気長に見守りましょう。

親として、子どもにこういう関わり方ができたらいいなと思うことはいろいろあるけれど、今すぐ全部やろうと力を入れすぎないで、1週間に1回でもできたら「ママは花マル！」と思ってくださいね。

